

JA全厚連情報



J A茨城県厚生連 土浦協同病院で二所ノ関部屋の力士を招いて節分祭を開催。感謝状を受贈

目 次

- 個人情報保護法の概説－漏えい対応を中心に研修
コンプライアンス・リスクマネジメントセミナーをWEB開催 1
- JA全厚連令和8年度事業計画等について協議
厚生連常勤役員・参事会議、厚生連会長会議を開催 2

・通信員だより

- 胸部X線検査にAI解析を導入しました（湖東厚生病院） 3
- がんサロンを開催しました（能代厚生医療センター） 4
- JA常陸青年部による農産物・加工品販売会（総合病院水戸協同病院） 5
- 農産物と加工品で医療従事者を激励（総合病院水戸協同病院） 6
- 茨城みなみ農業協同組合よりコシヒカリ 450 kgを受贈（JAとりで総合医療センター） 7
- 力士とふれあう節分祭 院内に笑顔広がる（総合病院土浦協同病院） 8
- 水戸協同病院で市民公開講座 骨の健康テーマに 130 人超来場（総合病院水戸協同病院） 9
- 無理なく、楽しく、フレイル予防 JA健康フォーラム 2026 開催（JA愛媛厚生連） 10
- 骨粗しょう症検査の無料体験を実施（JA熊本厚生連） 11



個人情報保護法の概説－漏えい対応を中心に研修

コンプライアンス・リスクマネジメントセミナーをWEB開催

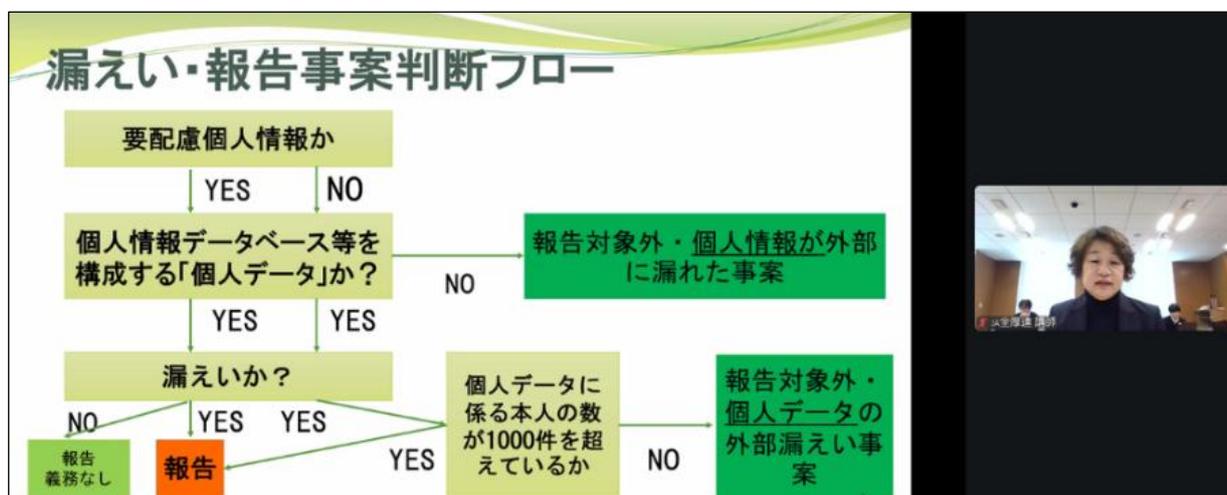
本会は1月23日、コンプライアンス・リスクマネジメントセミナーをWEBで開催し、28厚生連から150名以上が参加した。

本セミナーは、コンプライアンスにかかる知識の向上と各厚生連の課題や取り組み等の共有を図ることを目的として開催しており、当日は小町谷育子氏（法律事務所 Legal i プラス 弁護士）を講師に「全国厚生農業協同組合連合会 個人情報保護アップデート」と題し、令和4年10月以降の照会事例から見る留意案件や、病院・診療所及び薬局における注意喚起が必要な事項について講演が行われた。

小町谷氏は講演で、個人情報保護委員会への報告が必要な事案は、①要配慮個人情報を含むもの、②財産的被害のおそれがあるもの、③不正目的が疑われるもの、④1,000人超のものと定められており、特に①では要配慮個人情報や個人データの定義について説明した。

照会事例から見る留意案件では、患者IDのみの流出の考え方（いわゆる提供元基準）や個人データの考え方（紙に印字された場合であっても個人データとして取り扱われる等）、例外規定（研究目的でのデータ提供）など、現場で迷いやすい論点が具体的に示された。

参加者からは、「個人情報と要配慮個人情報の違いがよく理解できた」「個人情報の定義が再確認でき、難しい内容であったが、実際の事例を通じてわかりやすかった」等の感想が寄せられた。



セミナーの様子

J A全厚連令和8年度事業計画等について協議

厚生連常勤役員・参事会議、厚生連会長会議を開催

本会は、1月22日に厚生連常勤役員・参事会議、1月29日に厚生連会長会議をWEBとのハイブリッド形式にて開催した。

両会議では、(1) JA全厚連令和8年度事業計画、(2) 令和8年度経費の賦課および徴収方法について協議するとともに、(3) 令和8年度税制改正要望結果、(4) 令和8年度診療報酬改定、(5) 厚生連の令和7年度11月末経営収支状況、(6) 本会事務所の移転、(7) 令和8年度JA全厚連主要会議日程一等について報告した。

厚生連常勤役員・参事会議では、(4) 令和8年度診療報酬改定に関して、速やかな情報提供や改定による影響を確認した上で、さらなる国への要請を求める意見が出された。



厚生連常勤役員・参事会議の様子



厚生連会長会議の様子



胸部X線検査にA I 解析を導入しました

(J A秋田厚生連・湖東厚生病院)

生成A I を代表するC h a t G P T など、現在様々な分野でA I (人工知能) の利用が増えてきています。病院などの医療現場では、A I は主に医師の診断支援を中心として、画像診断支援、手術支援、心電図や内視鏡などの診断支援など、様々な場面で現在活用されています。

湖東厚生病院(波多野善明病院長)でも令和7年8月より胸部X線検査(胸部レントゲン撮影)において、A I による画像病変自動検出プログラム『C X R - A I D』を導入しています。

このプログラムは、撮影した胸部X線画像を自動解析し、結節・腫瘤影、浸潤影、気胸が疑われる領域を検出し、その確信度合によって色分けしてマーキングします。画像解析自体も複雑な操作は不要で、通常胸部X線撮影を行った後に、十数秒で自動的に解析が完了します。

これを医師の画像診断の補助に用いることで、更なる診療効率と精度の向上をもたらし、早期発見・早期治療を支援しています。

現在では画像検査におけるA I の技術革新もめざましく、A I 画像再構成を組み込んだC T やM R I では、従来の画像と比較し、より短時間かつ高画質な撮影を行えるようになってきています。

このように、A I には様々な可能性があり、正しく理解し上手に活用することで、私たちの生活をより良くすることができます。

医療現場においても、今後ますます普及が進むA I 技術を活用することにより、更に質の高い医療サービスを提供できると考えています。



結節・腫瘤影ヒートマップ画像

(斉藤瑞希通信員)

がんサロンを開催しました

(JA秋田厚生連・能代厚生医療センター)

能代厚生医療センター（太田原康成病院長）では、令和7年11月14日に能代厚生医療センターがんサロンを開催しました。

当院は「地域がん診療病院」として、がん相談支援センターを設置し、がん患者さんやご家族等が抱える悩みや課題への相談支援を行っています。がんサロンもその支援の一つで、がん患者さんやご家族などが体験を伝えたり、悩みを語り合うなど、交流の場となっています。相談会や勉強会を行うこともあり、当院を受診していない方でも参加することができます。

家族や医療関係者には話しにくいことでも話題にできたり、話すことで気持ちが軽くなったり、療養生活に役立つ情報を共有できる場にもなっています。

この度は、秋田県がん患者団体連絡協議会「きぼうの虹」田中副代表を含む3名の方を講師にお招きし、「ケア帽子作り」を行いました。

ケア帽子とは、治療などにより脱毛した頭部を優しく包み込み、痛みの軽減をサポートする帽子のことです。

参加者は院内スタッフ10名を含めて、初めての帽子作りに挑戦。苦戦しながらも談笑したり、体験を語り合うなど情報共有の場となり、交流を深めることができました。また、病気への対応や各種制度のパンフレット、面談コーナーの設置など、情報提供も行いました。

サロンをきっかけに、実際に参加された方やケア帽子のことを知った方々から、手作りのケア帽子ががん相談支援センターに届けられる機会も増えています。

寄せられた帽子は、化学療法室やがん情報コーナーに配置し、自由に持ち帰っていただくことができます。こうした善意の輪がさらに広がるよう、今後もがんサロンの開催を続けてまいります。



がんサロン「ケア帽子」

(齊藤瑞希通信員)

J A常陸青年部による農産物・加工品販売会

(J A茨城県厚生連・総合病院水戸協同病院)

1月23日、総合病院水戸協同病院（秋月浩光病院長）の玄関前において、J A常陸青年部による農産物販売会が開催されました。

県北地域に位置する同J A管内には様々な農産物があり、それらを消費者に広く知ってもらいたいとの思いからこの販売会が企画され、今回で4回目の開催となります。会場には、大子町や常陸大宮市を代表する農産物である奥久慈りんごをはじめ、いちごや季節の野菜、さらにりんごジュース、アップルパイ、ジャムなどの加工品が並び、多くの来場者の注目を集めました。

なかでも、毎回好評を博している恒例の「りんご詰め放題」には多くの方が訪れ、「毎回このりんごの詰め放題を楽しみに来ています」「今年もたくさん詰めることができ満足です」といった声が聞かれ、会場は終始にぎわいを見せていました。

青年部の野上勉委員長からは、「今後も茨城県北地域の農業を盛り上げる活動を続け、私たちが育ててきた農産物や加工品を通して、消費者の皆さまに喜んでいただければ幸いです」との言葉をいただきました。



病院前での販売会の様子



大盛況のりんご詰め放題

(先崎理恵通信員)

農産物と加工品で医療従事者を激励

(JA茨城県厚生連・総合病院水戸協同病院)

JA茨城県厚生連が運営する総合病院水戸協同病院（秋月浩光病院長）では、1月23日、JA常陸青年部会から農産物や加工品が贈呈されました。

この取り組みは、冬季の感染症流行期に医療現場の最前線で働く医療従事者を応援しようとして実施されているもので、今年で4回目となります。当日は、いちごや干し芋をはじめ、アップルパイやトマトなど、部会員が生産・加工した沢山の品々が届けられました。

同部会の野上勉委員長は「私たちが丹精込めて生産した農産物や加工品を通じて、医療従事者の皆さまに少しでも元気を届けることができればうれしいです」と話しました。

これに対し、秋月病院長は「地域の皆さまからの温かいご支援に心より感謝申し上げます。新鮮な食材が、医療スタッフの健康維持や意欲向上につながることを期待しています」と感謝の言葉を述べました。

ご寄贈いただいた農産物や加工品は、職員一同で感謝の気持ちを込めておいしくいただき、日々の業務への大きな励みとなりました。



贈呈時の様子 野上勉青年部会委員長(左)、秋月浩光病院長(右)

(先崎理恵通信員)

茨城みなみ農業協同組合よりコシヒカリ 450 kgを受贈

(JA茨城県厚生連・JAとりで総合医療センター)

JAとりで総合医療センター(富満弘之病院長)は1月26日、茨城みなみ農業協同組合からコシヒカリ 450 kgの寄贈を受け、同センターにおいて贈呈式を行いました。

茨城みなみ農業協同組合の齊藤繁代表理事組合長より、「茨城みなみ農協の地元で収穫したおいしい上等米を入院患者さんに召し上がっていただき、早く回復し社会復帰していただきたい」との温かい言葉とともに、目録が贈られました。

これを受け、富満弘之病院長は「このたびは貴重なお米をご提供いただき、心から感謝申し上げます。昨今の物価高騰により病院運営においても支出が増加する中、貴重なお米をご寄贈いただき、心から御礼を申し上げます。食べることは治療の始まりですので、入院患者さんの治療や療養生活の充実に大切に活用させていただきます」と謝意を述べました。

寄贈されたコシヒカリは、同センターの入院患者の食事として提供し、治療と回復を支える一助として活用されました。



贈呈時の様子
猪瀬看護部長(左) 富満病院長(中) 齊藤組合長(右)

(先崎理恵通信員)

力士とふれあう節分祭 院内に笑顔広がる

(JA茨城県厚生連・総合病院土浦協同病院)

2月9日、総合病院土浦協同病院（広岡一信病院長）1階エントランスホールにおいて、二所ノ関部屋の力士を招いた節分祭が開催されました。会場には多くの職員や外来・入院患者が集まり、院内はにぎやかな雰囲気になりました。

当日は、横綱・大の里をはじめとする力士が来院。大の里はあいさつの中で、「1月場所は少しひやひやする取組もありましたが、次に向けて頑張ります。また優勝しますので、今後も応援をよろしくお願いいたします」と語り、会場からは温かい拍手が送られました。

節分祭では、病院から二所ノ関部屋へ日頃の感謝を込めて、米50キロとお茶を贈呈。これに対し二所ノ関部屋からは、「地元の皆さまの応援があつてこそ土俵に立っている」との思いを込めた感謝状が病院へ贈られ、地域とのつながりを感じさせる場面となりました。

豆まきは安全面に配慮し、本物の豆ではなく「エアー豆まき」で実施。写真撮影では、小さな子どもを抱いた家族や患者が力士と交流する姿も見られ、終始和やかな雰囲気に包まれました。

来場者からは、「間近で力士に会えて元気をもらえた」「病院でこのような行事があるのはうれしい」といった声が聞かれ、地域に開かれた病院行事として盛況のうちに幕を閉じました。



感謝状を手にする広岡一信病院長(左)、横綱・大の里(右)

(先崎理恵通信員)

水戸協同病院で市民公開講座 骨の健康テーマに130人超来場

(JA茨城県厚生連・総合病院水戸協同病院)

JA茨城県厚生連が運営する総合病院水戸協同病院(秋月浩光病院長)では、2月14日、「ずっと元気に歩こう!」をテーマに市民公開講座を開催しました。

当日は、脊椎脊髄センター長・整形外科部長の辰村正紀医師による「背骨に生じる骨粗鬆症とその予防」をはじめ、菊池由華管理栄養士による「骨の健康は食卓から!」、本田綾花薬剤師による「知っておきたい骨と薬のはなし」の講演が行われました。さらに、所鈴夏理学療法士による「家でもできる骨コツ体操!」では、参加者とともに実践を交えたプログラムが展開されました。

このほか、器械を用いた骨の健康度測定や、医師をはじめとする多職種の医療スタッフによる健康相談も実施され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

会場には130名を超える市民が来場し、「骨に関するさまざまな知識を学ぶことができ、非常に有意義だった」「ぜひまたこのような講座を開催してほしい」といった声が寄せられるなど、大変盛況な市民公開講座となりました。



出演者(左から、本田薬剤師、辰村医師、菊池管理栄養士、所理学療法士)



骨コツ体操を実践する参加者たち

(先崎理恵通信員)

無理なく、楽しく、フレイル予防 JA健康フォーラム 2026 開催

(JA愛媛厚生連)

2月10日、松前総合文化センター広域学習ホールにおいて「JA健康フォーラム2026」を開催した。

各農業協同組合、JAえひめ女性組織協議会、JA愛媛厚生連が主催した同フォーラムには、JA女性部の皆さまをはじめ、JA青壮年部、市町、県関係者ら約300名が参加した。

「愛顔で健康 フレイル予防で未来をひらく！！～健康寿命をのぼそう！心も体も健康に！～」をテーマに掲げた同フォーラムでは、株式会社GOBOU代表取締役 築瀬寛氏を講師に迎え、「いつまでも元気をキープ！ごぼう先生とフレイル対策」と題した学習・研修会ならびに健康体操を行った。

築瀬氏は、介護の「ご」、予防の「ぼう」に由来する「ごぼう先生」の愛称で親しまれており、全国で健康体操の普及に努められている。

「できなくていい！楽しむことが一番大事！」をモットーに、自身の体験を語りながら、椅子に座ったままできる5秒体操等の健康体操を参加者らに紹介し、介護予防について明るく楽しく伝えた。

その後、JAうま女性部 吉原数子さんの体験発表、また毎年会場を盛大に盛り上げるJA女性部企画のアトラクション等が行われ、見どころ満載のステージとなった。

半日を通して開催された同フォーラムは、一人一人がフレイル予防の重要性を改めて認識し、組合員をはじめ、家族や友人、地域の方々とのつながりが、心身の健康を支える大切な基盤であることを再確認する機会となった。



JA健康フォーラム2026 開会の様子



学習・研修会を行う「ごぼう先生」

(八竹典子通信員)

骨粗しょう症検査の無料体験を実施

(JA熊本厚生連)

JA熊本厚生連は、2月14日・15日の2日間、JAやつしろ本所で開催された「生活総合展示会」において、検診をより身近に感じていただくため、無料の骨粗しょう症検査を実施しました。2日間で計180名の方が受診され、受診者からは「初めて骨密度を調べることができて良かった」「これから骨粗しょう症にならないように気をつけます」などの声が聞かれました。

また、健康支援ブースでは、骨粗しょう症の予防に関する情報提供を行うなど、定期的な健康診断の大切さや生活習慣病予防の重要性を組合員へ伝える貴重な機会となりました。



骨粗しょう症検査の風景

(多久弘高通信員)